

# 福生市新庁舎 の ご案内

FUSSA  
CITY  
HALL



福生市

# ごあいさつ



このたび、長年の懸案でありました新庁舎が完成をいたしました。これもひとえに市議会をはじめ市民の皆様並びに関係各位の温かい御理解と御支援の賜ものと深く感謝を申し上げます。

設計、監理に当たられた山本理顕設計工場、施工された大豊・森田JV他各社の御努力に深甚な感謝の意を表します。

建設の経過は次頁の通りです。それ以前から様々な課題に対する検討があり、石川前市長をはじめ多くの先輩諸氏の御検討の成果が、ここに実を結んだわけで、心から敬意と感謝を申し上げます。

庁舎の考え方や特徴は別掲の通りですが、耐震で100年もつ建物、トータルコスト（インシャルランニング）の低減、環境、景観対応、将来変化への対応等、幾つかの特徴のある庁舎になったと思います。

庁舎は市を代表し、議会があり又、市民の拠りどころであり、職員にとりましては事務所であります。

敷地全体に広がる1階の空間に、市民利用の窓口を集約しサービス向上を図ると共に、変化の激しい現代社会の中で、市民と職員が協働する拠点でもあります。

新庁舎完成を機に、職員一同、新たな気持ちで、市政に取り組みで参ります。市民の皆様にも、この新庁舎を自分達のものとして末永く愛し、親しんでいただければと念じております。

福生市長 野 澤 久 人



柳の芽が、しなやかに風を受け止める頃に、長年の懸案でありました新庁舎が完成いたしました事を、市議会を代表いたしまして、心よりお慶び申し上げます。

昭和39年に旧庁舎が建設され、昭和45年の市制施行などにより職員数や事務量が增加し、第3庁舎や第4庁舎等に各部署が分散化され、事務効率や市民サービスの低下を招いていたところであります。また、耐震診断により、大規模な改修、改築が必要と判定されました。

ここに完成した庁舎は、いろいろな場面で市民の方に参加いただきながら、ワンストップによる市民へのサービスの提供、防災拠点としての整備等、周辺環境へ配慮した市民空間を確保し、すべての人に対してのユニバーサルデザインであり、また、建設費用についても一般財源にたよることなく、起債も抑制し建設した事は、高く評価するところであります。

私ども市議会といたしましても、これを契機に、ますます、より開かれた議会をめざし、市民の皆様への負託に応えられまよう努力してまいる所存でございます。

結びに、新庁舎建設にあたり特段のご理解とご協力をいただきました市民の皆様と、建設のために多大なるご努力を払われました関係各位に心から感謝を申し上げて、ごあいさつといたします。

福生市議会議長 原 島 貞 夫

# HISTORY

## 新庁舎建設の経緯

- 平成 8年 3月 本庁舎の耐震診断調査を実施  
本庁舎耐震診断の結果、大規模な改修又は改築が必要と判定された。
- 平成 9年 9月 本庁舎耐震補強案の検討  
本庁舎耐震補強案を検討した結果、改修工事により執務スペースが狭くなり、更に庁舎の分散化が進むなど、市民サービスが低下するため、耐震補強工事を見送った。
- 平成 12年 1月 職員による「庁舎建設検討委員会」を設置  
庁舎建替の必要性を含んだ報告を市議会に対して行った。
- 平成 13年 5月 市議会に「庁舎検討特別委員会」を設置  
「できる限り早期に庁舎の建設が必要、市民意見を反映させる仕組み作りが求められる」との検討結果が平成 14年 2月に報告された。
- 平成 14年 3月 市議会に「庁舎建設特別委員会」を設置
- 平成 14年 6月 「庁舎問題を考える」をまとめ、市民意見を聴取  
～ 12月 市民の意見は「建替が必要」81%、「建替の必要なし」7%、「その他」12%という結果であった。
- 平成 15年 3月 庁舎建設特別委員会調査結果を報告  
市民意見の聴取結果を経て、「新庁舎建設の市民意見の合意形成はなされた。今後は市民参加、基本構想等市民への説明を十分配慮し、実践的かつ効率的な新庁舎を早期に建設されたい。」との調査結果が報告された。
- 平成 15年 9月 新庁舎建設基本構想（案）作成及び市民意見の聴取  
～ 11月 新庁舎建設基本構想（案）を作成し、広報、HP、小冊子にてPRするとともに、市民説明会を4回開催して、市民意見の聴取を行った。
- 平成 15年 12月 新庁舎建設基本構想を策定  
新庁舎建設基本構想（案）に寄せられた市民意見9件、市民説明会での意見及び庁舎建設特別委員会の意見を参考に、新庁舎建設基本構想を策定した。
- 平成 16年 8月 新庁舎建設市民検討委員会検討結果報告書を作成  
公募市民10名、団体推薦市民8名、学識経験者2名からなる20名の新庁舎建設市民検討委員会を設置し、6回の検討委員会と見学会を開催し、基本構想に基づく検討結果報告書をまとめ市長に報告した。
- 平成 16年 9月 庁舎建設特別委員会検討結果報告書を作成  
議会では、庁舎建設特別委員会と議会運営委員会において、基本構想に基づいた検討結果報告書を作成した。
- 平成 16年 9月 新庁舎建設基本計画の策定  
「庁舎建設特別委員会検討結果報告書」及び「新庁舎建設市民検討委員会検討結果報告書」をもとに、「新庁舎建設基本計画」を策定した。
- 平成 16年 9月 新庁舎建設基本設計者の決定  
基本設計を委託する設計事務所の選定は、設計者選定委員会を設置し、プロポーザル方式にて実施した。公募した結果50社の参加表明書の提出があり、10社を選定し、技術提案書の提出を要請した。公開ヒアリング、公開審査の結果、最優秀設計事務所を特定し、基本設計委託契約を締結した。
- 平成 16年 9月 新庁舎建設基本設計の作成  
～平成 17年 3月 新庁舎建設の基本構想及び基本計画に示された基本方針を反映した基本設計を作成した。
- 平成 17年 6月 新庁舎建設実施設計の作成  
～ 12月 基本設計をもとに、より詳細な実施設計を作成した。
- 平成 18年 3月 「庁舎建設工事」を4つの特定建設工事共同企業体と契約  
市庁舎建設工事を別発一般競争入札により、建築、電気設備、空調設備、給排水衛生設備の4つの特定建設工事共同企業体と平成 20年 3月 工期の契約を締結した。
- 平成 19年 3月 第1期工事完成
- 平成 20年 3月 第2期工事完成
- 平成 20年 4月 新庁舎完成記念式典開催

## 新庁舎建設の概要

### ● 防災拠点としての庁舎

震災時に防災拠点となることから、建築基準法で定める基準の1.5倍の耐震性能を有する構造とした。

また、非常時対応として、災害用マンホールトイレの設置、緊急用の飲料水の確保対策として、12.5tの受水槽を設置、自家発電設備330KVAを設置した。

### ● 経済的で環境に配慮した庁舎

機能性と効率性に重点を置き、維持管理費の低減を図った。

透水性舗装や雨水浸透層等により自然環境の保全を図った。

また、エコセメントや間伐材等を積極的に採用した。

### ● 市民サービスの充実

ワンストップ総合窓口の導入により市民サービスの向上を図るとともに、情報交換やコミュニケーションのできる利用しやすいスペースの充実を図った。

### ● 将来変化に対応できる庁舎

将来のレイアウト変更に対応できるように、柱や壁を極力少なくし、家具のレイアウトにて多様な空間を実現した。

また、床は全面OAフロアとし、配線の変更にも対応可能とした。

### ● ユニバーサルな利用を促す庁舎

市民関連部署を広大な1階フロアに全て配置し、市民が上下階に移動する必要が少なく、またバリアフリー関連法令をより高い水準にて満足している。

また、誰でもトイレはオストメイトに対応し緊急呼出装置も設置、1階風除室前に視覚障害者用の音声誘導装置の設置、議場の傍聴席に難聴者用の磁気誘導型ループアンテナを設置した。

### ● 周辺市街地環境への貢献と外部空間の充実

近隣への圧迫感や日陰の抑制を目的とした2棟方式を採用するとともに、周辺地区の緑地の補充と「ヒートアイランド現象」の軽減を目的に屋上緑化を実施した。

## ● コージェネレーションシステム

クリーンエネルギーである天然ガスを利用し、タービンを回転させ発電しその余熱を冷暖房に活用するシステム 発電能力 95 KW総合効率 73%

## ● 太陽光発電システム

太陽光を利用した発電システム 10 KWの発電能力を持つ

## ● 外断熱と魔法瓶効果

外壁と屋上を「外断熱」仕様とし熱エネルギーの損失を軽減  
また、熱の失われやすい窓には金属製のルーバーを設置し魔法瓶効果により熱の損失を軽減

## ● 屋上緑化

低層階の屋上を緑化し、断熱効果と「ヒートアイランド現象」の緩和を図った

## ● 雨水利用

雨水を屋上緑化の散水、トイレの洗浄水に再利用し節水を図った

## ● 地熱利用

空調用冷却水の予備冷却に地下水を利用

## ● センサー付照明器具

昼光センサー、人感センサーによる自動調光システム及び初期照度補正制御システムにより不要な点灯及び照度を抑制する

## ● 空調床吹き出し

ダクトレスの床吹出空調システムを採用し将来変化に対応

## ● 全熱交換機の採用

全熱交換機を採用し、換気における熱損失の軽減を図った

## ● 日射遮蔽効果

夏は高度の高い強烈な日差しを遮り、冬は高度の低い日差しを室内に取り込めるようにPC材の梁を効果的に配置した

## 建物断面案内図



## 施設プロフィール

敷地面積	4,757.94 m <sup>2</sup>
建築面積	3,200.75 m <sup>2</sup>
延床面積	10,228.77 m <sup>2</sup>
最高高さ	22.23 m
階数	地上5階地下1階
構造	PC造・RC造・一部SRC造
外壁仕上	50角タイル張り
用途地域	近隣商業地域・準防火地域・第三種高度地区

<b>事業費の内訳</b>	平成20年3月末現在
本工事費	3,184,650,000
外構工事費	41,500,000
新工ネ設備	110,985,000
設計・監理料	144,112,500
委託料	64,105,750
備品購入費	254,412,081
事務費等	22,278,440
合計	3,822,043,771

<b>財源の内訳</b>	
基金	2,799,216,804
起債	343,200,000
防衛省補助金(注1)	632,399,000
NEDO補助金(注2)	47,227,967
合計	3,822,043,771

(単位/円)

<b>設備概要</b>	
地下駐車場	76台
昇降設備	15人乗り 2基
自家発電設備	330KVA
給湯設備	個別給湯方式
太陽光発電設備	10KW
空調設備	空冷EHP
コージェネ設備	95KW

<b>施工業者</b>	
建築	大豊・森田JV
電気設備	JFE電制・細谷JV
空調設備	新日空・八重洲JV
給排水衛生設備	川本・農林JV
設計・監理	岡山本理設計工場

(注1) 防衛施設周辺的生活環境の整備等に関する法律第8条に基づく補助金

(注2) 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構による地域新エネルギー等導入促進対策費補助金



市民関連部署の大部分を1階に配置



委員会室



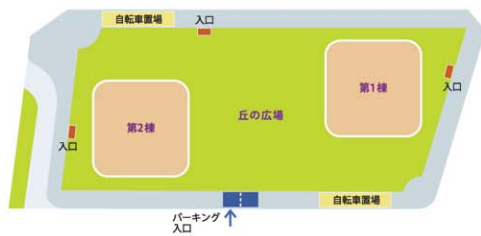
屋上太陽光発電システム



地下駐車場

オストメイト対応の誰でもトイレ





福生市 平成 20 年 4 月